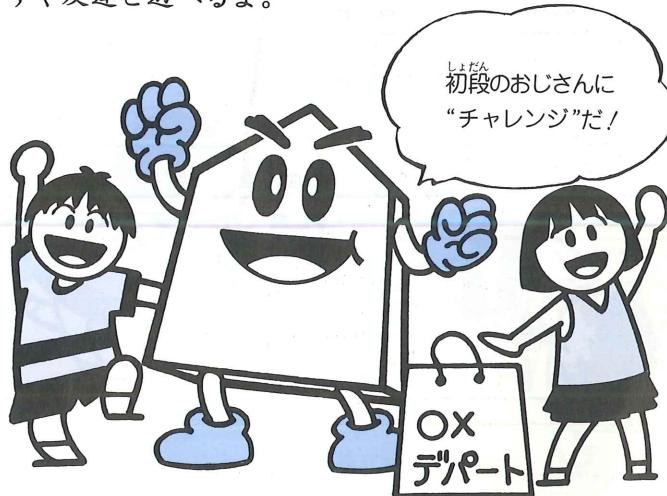


ゴロゴロ 将棋にアタック・その1

【将棋は二人でやるゲーム】

将棋は二人で遊ぶゲーム。将棋をすることを、正式には「将棋を指す」っていうんだ。将棋を指すときに使う道具は将棋盤と将棋の駒。ルールを覚えたら、まず一緒に遊ぶ相手を見つけよう。

さてSHÔちゃん、誰にゲームの相手をしてもらう？
SHÔちゃん「将棋盤と駒はデパートや、町のおもちゃ屋さんに売っているんだよね。僕が見つけた相手は隣の家のおじさん。アマチュア初段の免状を持っているんだって。ちょっとこわい！」
周りに強い人がいなかったら、友達を誘ってみるのがいいんじゃないかな。ゴロゴロ将棋だったら、今すぐ友達と遊べるよ。

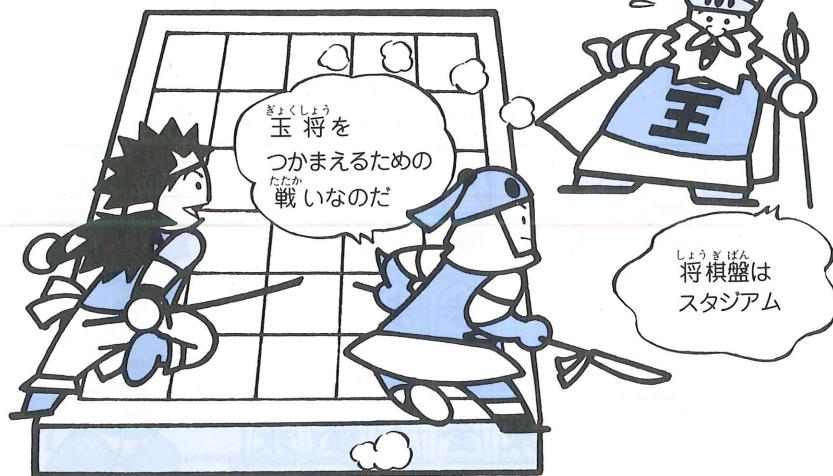


ゴロゴロ 将棋にアタック・その2

【将棋は王様をつかまえるゲーム】

野球やサッカーの試合をやるのは競技場。将棋盤というのは、将棋の試合をやる一種の競技場なんだ。SHÔちゃん「すると将棋の駒は、その競技場で試合をする選手たちなんだね」

そう。野球の選手に、いろんな役割があるように、将棋の駒にもいろんな役割がある。
全部で40枚の駒の中で一番大切な役割をするのが玉将（王将）といいう駒。この駒はチームの王様。どちらかが、相手の玉将をつかまえることによって、ゲームは終わる。玉将をつかまえることが、ゲームに勝つということなんだ。



ゴロゴロ 将棋にアタック・その3

【ゴロゴロ 将棋に使うもの】

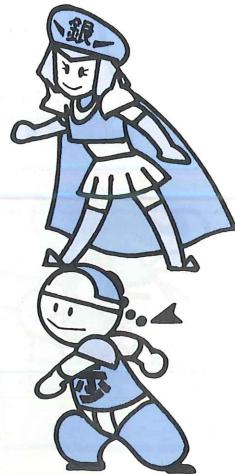
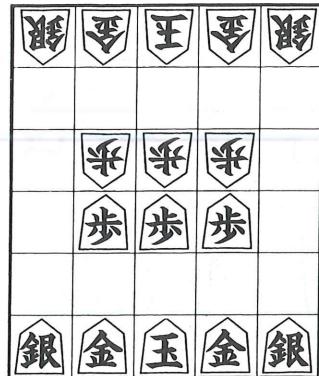
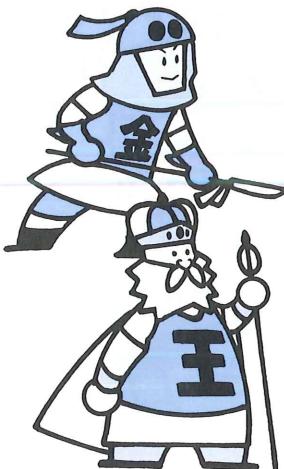
盤と駒

将棋の面白さはやってみなくては分からない。
SHÔちゃん、ゴロゴロ 将棋に使う盤と駒を覚えよう。

SHÔちゃん「下の図がゴロゴロ 将棋に使う駒なんだね。将棋盤のマス目はタテが6つでヨコが5つ。だから、ゴロゴロ 将棋っていうんだ。使う駒は、えーと玉将、金将、銀将、歩兵の4種類だったかな。でも、僕が買った将棋盤はもっと広いし、駒もたくさんあったよ」

丈夫。この本の裏はちゃんとゴロゴロ 将棋の将棋盤になっているんだ。4種類の駒は普通の将棋の駒の中から選んで使えばいい。

⑧



ゴロゴロ 将棋にアタック・その4

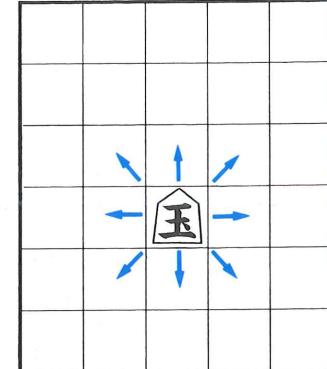
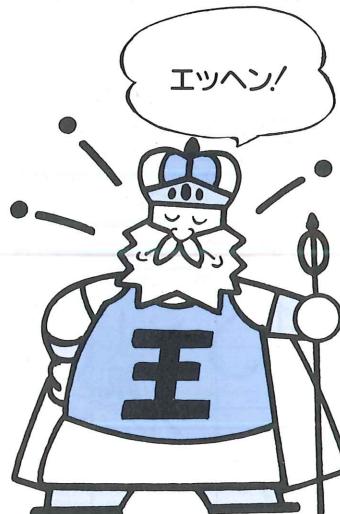
【ゴロゴロ 将棋に使う駒】

—「玉」がいちばん大切—

ゴロゴロ 将棋に使う駒は4種類。この4つの駒の動きを知ることが、ルールを覚えるための第一歩だよ。ではSHÔちゃん、玉将の動きを覚えよう。

SHÔちゃん「下の駒が玉将(ぎょくしょう)。この駒が一番大切な駒なんだね。玉は図のように、周りの8カ所に1つずつ動くことができるんだよ」

そう。タテ、ヨコ、ナナメ。どこにでも1つずつ動くことができるんだ。玉将は略して玉(ぎょく)と呼ばれることが多いんだよ。



⑨

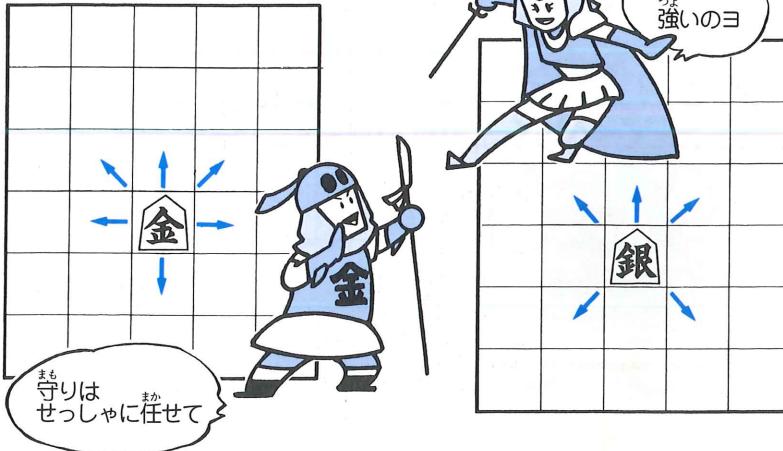
しょくぎ
ゴロゴロ 将棋にアタック・その 5

しょくぎ
つか
こま
【ゴロゴロ将棋に使う駒】

—玉を守る「金」、どんどん攻める「銀」—

玉の次は金将(きんしょう)の動きを覚えよう。
玉と同じように金将は金(きん)、銀将(ぎんしょう)
は銀(ぎん)、歩兵(ふひょう)は歩(ふ)と呼ばれる
のが普通。玉、金、銀、桂、香。将棋の駒に使
われているこの5つの文字は、それぞれ昔の宝物を
意味しているんだ。

SHÔちゃん「下の図の左側が金の動き方だよね。
えーと、玉の動きに似ているけど、ななめうしろに
さがることができないんだ。動くことのできる場所は
1、2…。全部で6つ。そして、右側が銀の動き方。
今度は横と真うしろに進むことができない。動くこと
のできる場所は全部で5つ」



しょくぎ
ゴロゴロ 将棋にアタック・その 6

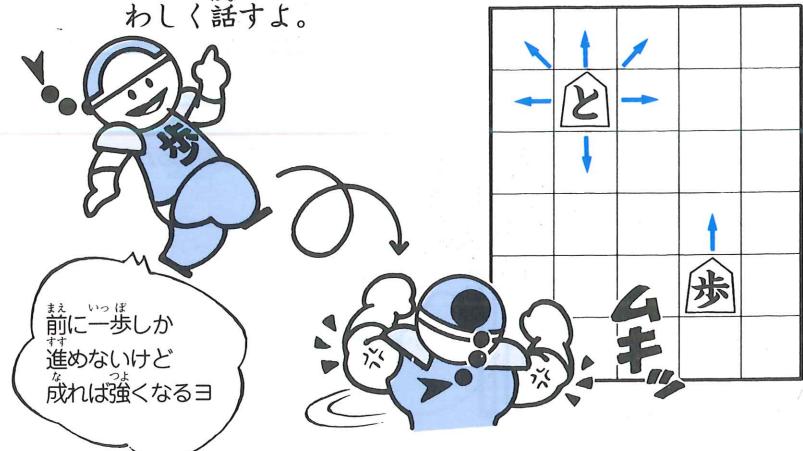
しょくぎ
つか
こま
【ゴロゴロ将棋に使う駒】

—前に一步ずつ進む「歩」—

金と銀の動きはちょっと似ている。最初のうちはこ
の本をよく見て、間違えないように覚えよう。さて、
今度は歩の動きだ。SHÔちゃん、これは簡単だね。

SHÔちゃん「一步ずつ前に進むだけ。これならす
ぐ覚えちゃう。あれ、下の図の左側の歩はひっくり
返って『ど』という駒になっている。これはなんだろう」
ゴロゴロ将棋の場合、相手の陣地(上側の二段。
自分の陣地は下側の二段)に入った歩は「ど金」といつ
て、金の働きをするようになる。同じように、相手
陣に入った銀も「成銀」になって、金の動きをするこ
とができる。

成るということについては、第2章でもう一度く
わしく話すよ。



ゴロゴロ 将棋にアタック・その7

あいてと
【相手の駒は取れるの?】

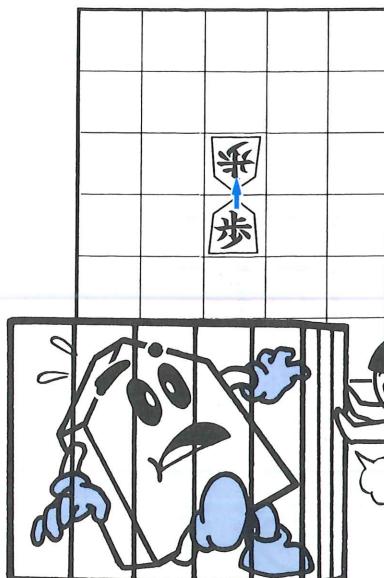
SHÔちゃん「あれ、僕の歩の前に相手の歩がいる。これでは前に進めないよ」

そうじゃないんだ。下の図のように、自分の駒が進むことのできるところにいる相手の駒は、その駒を取りながら、その駒の位置に進むことができるんだ。

SHÔちゃん「それじゃあ、この歩は前に進んでもいいんだ。取った相手の駒はどうするの？」

それは持ち駒といって、自分の駒としてあとで使うことができる。

これがとても大切なルールなんだ。



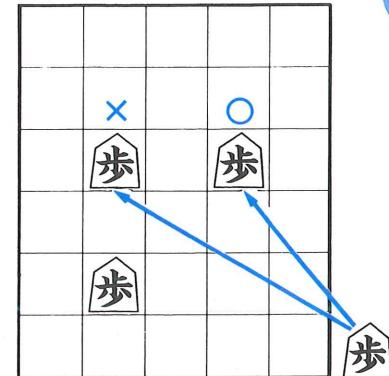
自分の手番
だったら相手の
駒を取れるんだ

ゴロゴロ 将棋にアタック・その8

と
つか
【取った駒は使えるの?】

たとえば、下の図のような場面があったとしよう。ここで SHÔちゃんの手番なら、持ち駒の歩を将棋盤の上の空いているマス(駒のいないところ)に置くことができる。これを持ち駒を打つというんだ。

SHÔちゃん「空いているところなら、どこに打ってもいいの？」
タテの筋に2枚以上の歩を並べるのは、二歩といつて、反則なんだ。その他の反則は第2章で話すけど、今は「二歩はいけない」とだけ、覚えておこう。



と
つか
取った駒を
使えることで
面白さがグーンとアップ

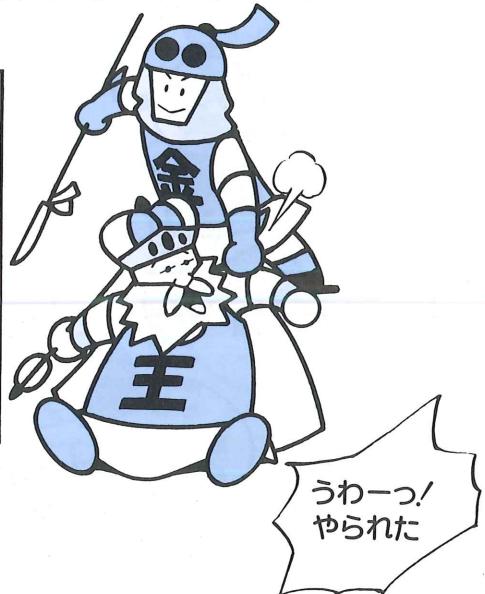
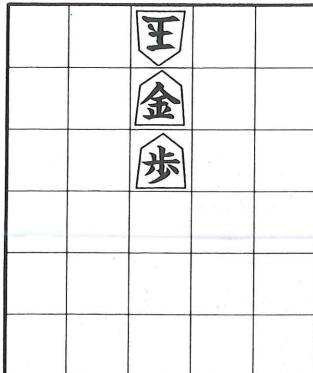
ゴロゴロ 将棋にアタック・その9

かまき【勝ち負けはどうやって決まるの?】

玉が一番大切な駒だということは、前にもいったね。その玉が取られちゃったら、将棋はおしまいなんだ。下の図をよく見てごらん。

SHÔちゃん「僕の玉が取られそうになっている。玉で金を取ると、今度は歩で玉を取られちゃう」よく分かったね。このように、玉がどうしても取られてしまう状態のことを「詰み」という。将棋は、相手の玉を詰ますことによって、勝ち負けが決まるゲームなんだ。

SHÔちゃん「とにかく、玉を大切にしなくてはいけないんだね」



ゴロゴロ 将棋にアタック・その10

さき【どちらから指すの?】

SHÔちゃん「さて、ルールを覚えたところで、さっそく勝負してみよう。順番はどうすればいいの?」だれかが最初に指すかをじゃんけんで決めよう。次からは、一回ずつ順番に指していくんだ。正式には、最初に指す人を先手、あとから指す人を後手という。

SHÔちゃん「最初は好きな駒を動かせばいいんでしよう。まず銀を動かそう。相手はどうやってくるかな」そうそう。そうやって、玉が詰むまで戦うのが将棋。さあ、楽しく遊んでみよう。

